

大修館書店・マクミランランゲージハウス共催セミナー 「英語の発信力を高めるライティング・文法指導実践講座」レポート

編集部

さる2018年12月2日に大修館書店・マクミランランゲージハウス共催セミナー「英語の発信力を高めるライティング・文法指導実践講座」を開催いたしました。本セミナーは主に高校の英語の先生向けに、「生徒の英語発信力を高めるために効果的な指導を行うにはどうすればよいか」といったお悩みを解決するために、2人の講師をお迎えして行われた実践的なセミナーです。

第1部の講師には京都大学の笹尾洋介先生をお迎えして「京都大学の英語教育——英語ライティング授業に焦点を当てて」と題した講演を行っていただきました。京都大学における英語教育カリキュラム改革の概要に始まり、授業や課題設定について、ご紹介いただきました。また、後半では英語産出能力を高めるための「意味順」に基づいた英語指導についてご紹介いただきました。

笹尾先生は「発信の観点から言えば、『だれが、どこで、なにをした』といった語の順番を間違えないことが大切です。語法的に間違っていたとしても、意味が通じるように指導するとよいでしょう。例えば、『もし雨が降ったら、明日の遠足は中止だ。』という文を英語で発話させる際に、『雨が降る』はrainという動詞で表せるけれど実際には『If it rains』と誤る学習者が多い。でも意

味は通じるし、『If rains』という誤りであっても意味は通じる。上級学習者にはさらに正確性を高めるための指導をする必要があると思いますが、まずは意味が通じるように発話させてみるとよいでしょう」と語られました。

参加者からは「ライティングなどの際に語順でつまづく生徒が多いので、『意味順』の解説がとても参考になった」といったお声が寄せられました。

第2部では立命館大学の山岡憲史先生をお迎えし「4技能の基礎となる文法力を培う『ジニアス総合英語』の活用法」と題した講演を行っていただきました。新学習指導要領で求められる諸観点をご紹介いただきながら、これから必要な文法力の養成について、具体例に即して解説していただきました。後半では『ジニアス総合英語』を用いた指導実践例をご紹介いただきました。会場の参加者と共にワークショップ形式で行い、クイズや意見交換など、活発なやり取りが行われました。

山岡先生は「例えば生徒が英文を書いたときにwhoとwhichとthatといった関係代名詞の使用を間違えたとしても、いちいち目くらを立てたりしない。形式の正確性は英語の使用と共に習得されていくと考え、まずは文法の持っている働き・機能(function)、使い方(usage)、どんな場面・状況で使われるか(context)、そうしたことを指導するのが教師の役割だと思います。それによって生徒が文法について気がつき、理解をし、興味を持てば、『ジニアス総合英語』のような参考書を自ら読んでいくのではないのでしょうか。是非、文法指導の際には形式主義に陥らない



笹尾洋介先生

ようにしていただきたい」と語られました。

参加者からは「文法項目をただ教えていくのではなく、文脈を意識して指導することの大切さがよくわかった」「(山岡先生が具体例として解説された)関係代名詞の説明の仕方を明日からの授業で使ってみたい」といったお声が寄せられました。

会場ではマクミラン社の教材や小社の書籍の展示も行われ、セミナー終了後の懇談会でも、お二人の講師への質問が相次ぐなど、盛会のうちに終了いたしました。

アンケートでは参加者の多くからセミナーにつ

いて「満足いく内容だった」とご回答いただきました。今後も英語指導に役立つ内容のセミナーを各地で開催してまいりたいと思います。



山岡憲史先生

◆セミナーに参加して

20年以上高校で教えてきたが、高校の現場を離れて4年近い。その間にさまざまな参考書・教材が新たに発刊されたが、営業の方からそれらの特徴を耳にする機会がほぼ皆無となった。

11月のある日、定期購読している『英語教育』を読んでいると、見知った写真付きのセミナーの案内が目に入った。

このセミナー、笹尾洋介先生が京都大学のライティング授業を紹介されることから、「意味順」について話を聞けるのではということ、山岡憲史先生とは旧交を温められればということを目的に、他社との共催セミナーとは珍しいなと思いながら、申し込んだ。

いわゆるアクティブラーニングが話題となっている現在、講師からの話だけではなく、隣や前後の参加者間で意見・情報の交換をしながら進められ、私にとっては収穫大のセミナーとなった。

以下の4点が収穫として挙げられる。

①大修館・マクミランの書籍・教材をまとめて手にすることができた：書籍・教材を直接手にし、その中身を覗くことはなかなかできない。ありがたい機会であった。

②前に座った先生とのペアワークで高校の現況に

ふれられた：日曜日の午後開催のセミナーに参加されるだけあって、ペアワーク相手の女性の先生からは意欲的な取り組みの話が聞けた。私からは、それに見合うだけの情報が提供できず、申し訳なかった。

③「意味順」について話を聞けた：中学1年生相手に授業を行う毎日。口頭では言えることでも、定期テスト等で「書く」となると、「どの順番に単語を書いたらいいのか、わからない」という声が教室のあちこちであがっていた。本セミナー後、「意味順」を意識させたところ、生徒たちの頭はかなり整理されたようであり、「書きやすくなった」「言う時も前よりは迷わなくなった」と直接私に言いに来た生徒もいる。

④『ジーニアス総合英語』編者の思いを直接聞けた：解説を『ジーニアス総合英語』に求めた多くの指導例とともに、その特長を編集主幹の1人である山岡先生から聞くことができた。書き手・作りの意図や思いを直接聞ける機会は実に貴重であった。

本セミナー以降、『ジーニアス総合英語』に掲載されている100のコラムを、無理せず1日1つ読むことを自らに課している。

福水勝利（ふくみず かつとし・千葉県）